

『ご縁』とは…」

山田 實順

あるご門徒宅に、法事等とは別に年に数回お経を読みを訪れます。その門徒さん一家の信心は篤く、当主はもちろん成人した子どもさんや嫁いだ妹さんも可能な限りお参りされます。そしてその度に、「〇〇さんは、今日お経をもらって喜んでいる」と亡くなられた方のお名前を口にされます。近年仏事の場合においても亡くなられた方のお名前を聞く自体が稀になってしまっているので、このお宅は貴重な場として受け止めています。しかしそこで、「本当に読経が先祖や亡き人のためになんだろうか。先祖や亡き人が喜んでいるのだろうか」と少しばかり違和感も覚えます。決してこのご門徒さんの想いを否定するわけではありませんが…。

本来、お経を読んでその教えをいただくということは、「今を生きる私達のため」なのではないでしょうか。「今を生きる私達が、亡くなられた先祖の『ご縁』により集い、亡き人を想い、仏さまや先祖に、今を生き今在ることを感謝する。そして、安堵と安らぎを求め、安らかなる事を願う事」であると思います。つまりそれが「今を生きる私達のため」なのであると思います。

近年、法事等の仏事の場合が減少しつつありますが、亡き人のご命日に合わせて近親者が集い、そこでお経を拝聴することによって仏さまの教えに出会い、今私が在ることの意味を確認することが、仏事をひらくことの意味であると思います。そしてそれによって、亡き人を仏さまと呼び合える関係が成り立ってくるのではないのでしょうか。その亡き人との『ご縁』によって、仏さまや先祖に手を合わせ、脈々と続くその『ご縁』の中で生かされていることを感じてまいりたいと思います。